

Muay Yoko 公式ルール

～ Yokohama Muay Thai Amateurs Style ～

1. 大会開催趣旨

本大会はムエタイ・キックボクシング競技の“プロ”を目指す者のためにリングを提供する大会である。

2. 出場資格

心身ともに健康で、いかなる格闘技のプロ試合にも出場経験の無い者に限る。

ただし、スペシャルワンマッチ区分に関してのみ、大会毎の規定により、格闘技プロ試合出場経験者の出場を認める場合がある。

3. 試合場

試合は 5.0～7.5メートル四方、4本もしくは3本ロープのリングを使用する。

4. グローブ

60.00kg以下の階級の試合には規定の12ozグローブ、60.01kg以上70.00kg以下の階級の試合には規定の14ozグローブ、70.01kg以上の階級の試合には規定の16ozグローブを使用する。

5. バンテージ

必ず着用すること。素手、手袋状の代替物の使用は認めない。

6. テーピング

拳への使用は認めない。バンテージの巻き終わりを留める目的での手首への使用のみ認める。

7. バンテージチェック

選手はグローブを着用する前に、大会公認インスペクターのチェックを受ける。

グローブの着脱についても、大会公認インスペクターによって行われる。

8. 格好

大会より支給される上衣を、背面上部にゼッケンを貼り付けた状態で、必ず着用すること。

トランクスは清潔なキックボクシング用トランクスを各自持参し、必ず着用すること。トランクスの色については、特に定めない。空手着、スパッツなどの着用は一切認めない。

試合中は危険防止のため、上衣を必ずトランクス内側に入れ、外に出さないこと。

9. 防具

マウスピース・ファールカップ・ヒザパット・スネパットは各自持参の上、必ず着用すること。

ファールカップについてはトランクスの下に着用し、外から見えないようにすること。女子選手はチェストガードも上衣の下に必ず着用すること。ヒザパット・スネパットについては、布製でゴムのゆるみの無い清潔な物とする。色に指定は無いが、布製以外の物の使用は認めない。

ヘッドギアは大会指定のものの着用が望ましいが、出場選手が特に希望し、大会インスペクターも形状的に問題が無いと判断した場合に限り、選手の持参したものの着用を許可することがある。

コンタクトレンズを着用しての出場は認めない。出場が発覚した場合はその場で失格とする。

ワセリンについては顔にのみ、最小限度の使用を認める。タイオイルの使用は禁止する。

10. 計量

計量は大会当日の指定時間に行い、計量案内に記載された体重をオーバーした選手は失格とする。ただし、計量後1時間以内に契約の体重まで落とした選手は出場を認める。

11. 試合方式（ワンマッチ）

1 ラウンド 1 分 30 秒を 2 ラウンド（インターバル 30 秒）、いずれも 2 ノックダウンシステムにて勝敗を競う。2 ラウンドで勝敗がつかない場合は、延長ラウンド 1 分を 1 ラウンド行う。延長ラウンドの前はインターバルを設けない。

12. 試合方式（トーナメント）

1 ラウンド 2 分を 2 ラウンド（インターバル 30 秒）、2 ノックダウンシステムにて勝敗を競う。2 ラウンドで勝敗がつかない場合は、延長ラウンド 1 分を 1 ラウンド行う。延長ラウンドの前はインターバルを設けない。

トーナメント決勝戦に限り、1 ラウンド 2 分を 3 ラウンド（インターバル 30 秒）、2 ノックダウンシステムにて勝敗を競う。3 ラウンドで勝敗がつかない場合は、延長ラウンド 1 分を 1 ラウンド行う。延長ラウンドの前はインターバルを設けない。

試合形式	本戦	延長戦	インターバル
ワンマッチ	1 分 30 秒 2 ラウンド	1 分 1 ラウンド	30 秒 ※延長ラウンド前 は無し
トーナメント	2 分 2 ラウンド		
トーナメント決勝戦	2 分 3 ラウンド		

13. セcondsスタッフ

基本的には大会スタッフが担当するが、出場選手本人が特に希望した場合に限り、インターバル時のセコンド行為者 1 名を認めるものとする。

セコンド行為者は、インターバル 30 秒の制限時間遵守の上で、リングでのセコンド行為を行うこととする。インターバル終了後は、指定位置もしくは客席よりの応援をすること。

14. 試合開始・終了

試合はレフェリーの「ファイト」の合図により開始、タイムキーパーのゴングでの合図によって終了する。試合中レフェリーより「ブレイク」の合図があった場合、選手は直ちに攻撃を止めること。

試合終了間際に選手がダウンした場合、レフェリーはダウンカウントを続行し、ダウンはゴングに救われない。選手がカウント 10 までに立ち上がり試合続行の意志確認が得られた場合は 1 ダウンとし、選手が立ち上がれなかった場合はその選手の K0 負けとなる。

15. 採点

勝敗の判定はジャッジ 3 名によって行われ、レフェリーは判定には加わらない。

16. ポイント

10 点満点とする。ダウンについては 1 ダウンにつき マイナス 2 ポイントとする。

また次の 3 つの要素を判定の基準とする。

- 対戦相手へ与えたダメージ
- 対戦相手へのクリーンヒット
- 対戦相手へのアグレッシブ度

17. 勝敗の判定基準

【判定勝ち】

試合終了時に集めたジャッジペーパーにより、ジャッジ 2 名以上の支持があった選手を判定勝ちとする。1 名のみ支持では引き分けとし、延長ラウンドを行う。延長ラウンドに関して、ジャッジは延長ラウンドのみの攻防を判断し、微差であれポイント差をつけ、必ず勝敗をつける。

【KO勝ち】

パンチ・キック等による正当な攻撃を受けた選手が、10秒以上のダウンを喫した場合、攻撃を与えた選手がKO勝ちとなる。

【TKO勝ち】

パンチ・キック等による正当な攻撃を受けた選手が負傷し、レフェリーの要請によりドクターチェックを受け、ドクターが試合続行を不可能と判断した場合、攻撃を受けた選手が10秒以内に立ち上がっても、レフェリーが試合続行を不可能と判断した場合、攻撃を受けた選手にダメージがあり棄権した場合、もしくは戦意を喪失した場合、いずれも攻撃を与えた選手のTKO勝ちとなる。

【反則勝ち】

対戦相手の反則行為によって試合続行不可能になった場合、対戦相手が明らかに悪質な反則行為を犯した場合、対戦相手がレフェリーから警告を3回受けた場合は、反則を受けた側の選手のダメージに関わらず反則勝ちとなる。

【引き分け】

本来は勝敗を決するが、偶然のバッティング等のアクシデントにより試合続行不可能となった場合のみ、負傷引き分けとする場合もある。

18. 反則

頭突き・肘打ち・サミング・噛みつき・故意による金的攻撃・関節技
腰を使つての投げ・足を掛けての投げ・後方への投げ・その他一切の投げ技
攻撃を加える為にロープを掴むこと・相手の蹴りを掴んだまま2回以上の攻撃を与えること
レフェリーの「ブレイク」合図後の攻撃・背後からの攻撃・後頭部への攻撃
背を向けて対戦者から逃げようとする行為・故意に対戦相手をリング外に落とそうとする行為
故意に自ら場外へ出ること・場外での攻撃
レフェリー、ジャッジ、対戦相手に対する侮辱的攻撃的な言動行動

19. 警告

18条の反則、もしくは消極的な対戦態度と見受けられた時は、レフェリーが警告を与える。

警告は1回で注意、2回で減点1、3回で失格となるが、行為が悪質と見なされた場合は1回の警告で失格、もしくは減点1とする場合がある。

20. 失格

悪質な反則行為により、レフェリーが失格を宣言した場合
消極的な対戦態度と見受けられる試合をした場合
試合中レフェリーの指示に従わなかった場合
試合開始時刻に遅れた場合、防具の着用が遅れ試合進行を妨げた場合
粗暴な振る舞い、悪質な態度と見なされた場合
健康管理上、レフェリーまたはドクターが試合出場不可能と認めた場合
契約体重に違反した場合、コンタクトレンズの着用が発覚した場合
必要な防具の用意が出来なかった場合（マウスピース・ファールカップなど）
虚偽の申請にて本大会申込を行っていたと発覚した場合
その他試合規定に違反すると認められた場合

21. レフェリー・ジャッジ

本大会ルールを熟知し、選手の安全対策に十分な注意を払い、ダメージ・有効ポイントを的確に判断できる者とする。

試合中はいかなる場面でも、レフェリーの指示を最優先とし、選手はこれに従わなければならない。

22. 選手

日頃の練習の成果を、本大会ルールに従い正々堂々と発揮すること。

23. 罰則規定

本大会申込みの際に、事実を偽る申請を行っていた者は、以後本大会への出場は認めない。

24. 異議申し立て

出場選手は、レフェリー・ジャッジの宣告に対して異議の申し立てを行うことは出来ない。

25. その他事項

本大会ルールに定められていない問題が起きた場合は、本大会公認レフェリー、ジャッジからなる審議委員会にて合議の上これを処理するものとする。

【2004年3月1日制定】
2005年7月1日・9月21日
2006年3月21日
2007年2月12日・9月1日
2008年6月1日
2011年4月21日・11月1日
2012年5月21日一部改訂